

# 「踏みしめて」第22号

～町の様子を皆様に伝えていきます～



亀澤 進

東京から西の地方は、1月1日からの最高気温の積算が400～450度に達するとすぎ花粉の飛散が始まるそうで、2月17日頃がちょうどそうでした。万全な準備をされている方もいると思いますが、花粉対策を怠らないようにしましょう。  
さて、相変わらず国政が混乱している中、県や政令市を始め大きな市は次々と23年度予算案を打ち出しています。森町も3月3日を本会議初日として予算案が発表されます。毎年約半分が国・県に依存している当町の予算ですが、町民のための充実した予算であることを願っています。

## 広域農道回復！ 3月15日開通

平成21年5月9日に法面が崩落し通行止めとなっていた橋城下線（広域農道）が、3月15日に開通の予定となりました。長い間ご不便をおかけしました。



## 分担金2,137万9千円 東海アクシス

2月14日に中東遠看護専門学校（東海アクシス）組合議会が開会されました。5市1町から計17人の議員が出席し、23年度予算について審議しました。

予算総額は歳入・歳出3億6,600万円で、歳入の内の市町負担金は3億2,800万円となりました。森町の分担金は人口割561万5千円、病床数割863万3千円、採用者数割713万1千円で、計2,137万9千円となりました。

特別会計となる奨学金貸与の予算総額は、歳入・歳出6,280万円で、新年度の貸与見込学生数は160人となりました。 ※奨学金貸付金：3万円×12月×160人＝5,760万円

居住地	受験者数				合格者数			
	23年度		22年度		23年度		22年度	
	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
磐田市	11	15	8	20	6	9	5	4
掛川市	11	15	11	19	7	2	9	7
袋井市	4	9	8	17	1	3	6	9
御前崎市	1	3	2	2	1	3	1	1
菊川市	5	2	2	3	4	2	2	2
森町	2	2	1	1	1	1	1	
小計	34	46	32	62	20	20	24	23
その他	14	21	12	36	10	10	6	6
県外	0	2	0	5	0	1	0	1
合計	48	69	44	103	30	31	30	30
	117		147		61		60	

(単位：人) ( )数字は進学を第一希望

卒業予定者進路見込み医療機関		22年度	21年度
管内	磐田市立総合病院	20	5
	掛川市立総合病院	(1)7	3
	袋井市立袋井市民病院	(1)17	14
	市立御前崎総合病院	8	6
	菊川市立総合病院	4	12
	公立森町病院	5	6
	小計	61	46
県内	県内病院	4	10
県外	県外病院	2	1
その他	未定	0	2
	進学	(2)	1
合計		67	60

# 自治体間連携による定住化策 研修報告

今の社会では少子高齢化がどんどん進み、労働人口の減少とともに税収は減り社会保障費は増え、行政運営が滞ることは間違いないでしょう。特に地方にあっては若年人口の流出を止めない限り、急速に事態は進展していきます。これは日本全体に言えることで、それぞれの自治体や地域が自分たちだけ良くなろうと考えていては、解決の糸口はまったく見えてきません。競合せずに連携や役割分担をすることで定住化を図っていかなくてはなりません。

このような状況を踏まえ総務省は、地方圏において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出することを目的に、「定住自立圏構想」という政策を平成21年4月から全国展開してきました。

## 定住自立圏構想推進要綱の概要



左図は総務省が提供する概要です。中心市宣言を行った市が、住民生活等において密接な関係を有する周辺の市町村との間で、議会の議決を経た上で、1対1で「定住自立圏形成協定」を締結し、人口定住のために必要な生活機能確保のための相互の役割分担を決めます。

そして、生活機能確保の役割を担う民間や地域の関係者、圏域住民で構成する「圏域共生ビジョン懇談会」での検討を経て、協定締結した他の市町村との協議の上、「定住自立圏共生ビジョン」(おおむね5年を想定)を策定し、圏域の将来像や、具体的な取組内容及びその成果を決めます。

定住自立圏共生ビジョンを策定した中心市及びその周辺市町村の取組に対して、国の財政措置もあります。

平成23年2月3日現在の全国の取組状況は、中心市宣言した市が62市。協定を締結した定住自立圏域が49圏域(参加市町村は延べ192)となっています。

静岡県についてはまだ何も進んでいない状況です。

## 様々な圏域の形態

**県境を超えて形成された定住自立圏 (県境型)**

**県境型**

住民の生活実態を踏まえ、**県境の市町村間で圏域を形成**

※いずれの圏域も県境を超えて地域住民の移動(通勤通学等)が存在

中心市名	定住自立圏エリア	県境での取組例
米子市・松江市	鳥取県・島根県境	中海(県境の湖)の水質保全
備前市	岡山県・兵庫県境	広域観光ルートの設定
中津市	大分県・福岡県境	県境コミュニティバス路線新設
都城市	宮崎県・鹿児島県境	休日診療、夜間救急体制維持

**他の圏域と重複する定住自立圏 (圏域重複型)**

**ある市町村が複数の圏域を形成**  
(複数の中心市と連携する周辺市町村)

中心市名	周辺市町村
都城市	三股町、曾於市、志布志市
鹿屋市	垂水市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大崎町、肝付町

**大規模な市の圏域が他の圏域を包含して圏域を形成**

中心市名	周辺市町村
延岡市	日向市、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町
日向市	門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村

**2つの市を中心市とする定住自立圏 (複眼型)**

**複眼型**

2つの市が共同して中心市となり、圏域を形成

中心市名
米子市・松江市
四万十市・宿毛市

**広域的な合併を行った合併市の定住自立圏 (合併一市型)**

**合併1市圏域型**

広域的な合併を行った**合併市**で人口最大の旧市の昼夜間人口比率が1以上のものは、**合併1市で定住自立圏を形成**  
(人口最大の旧市を中心地域、他の旧市町村を周辺地域とした「定住自立圏形成方針」を策定)

大館市、由利本荘市、下関市、薩摩川内市、山鹿市、唐津市、今治市、旭市、出雲市、浜田市、伊勢崎市、宮古島市、山口市、八女市、横手市
--